目次

オペレータモードの利用 1
オペレータモードの利用: イントロダクション 1
ファイルを開くオプション 1
オペレーター モードのメニュー オプション 2
ファイル 2
編集 4
画像 4
ウィンドウ 5
ﾍﾙﾌ 5
オペレータモードでの[マークされたセット]ウィンドウの使用 5
ファイル マネージャーへの退出 5
レポート全体を印刷 6
チップをキャリブレート 6
あらかじめ定義されたマーク済みセット 7

オペレータモードの利用

オペレータモードの利用: イントロダクション

オペレータ モードでは、PC-DMISを操作する時に利用可能なオプションが制限されます。いったんオプションが制限されると、オペレータができるのは、測定ルーチンを開き実行することに限定されます。

オペレータモードでPC - DMISを起動するには、「**スタート**」メニューから、「**すべてのプログラム | <VERSION> | <VERSION>オペレータ**」を選択し、ここで、<version>はお使いのPC - DMISバージョンを表します。

PC-DMISがオペレータモードで起動すると、測定ルーチンを実行するのに必要なオプションのみが利用可能となります。

この章の主なトピックは、次のとおり:

- ファイルを開く場合のオプション
- オペレーター モードのメニュー オプション
- オペレータモードでの[マークされたセット]ウィンドウの使用

ファイルを開くオプション

ファイルを開くダイアログ ボックス (**ファイル | 開く**)は、標準のWindows ファイルを開くダイアログです。測定ルーチンのファイル名をダブルクリックすることにより、あるいは、測定ルーチンのファイル名を選択して[**開く**]ボタンをクリックすることにより、オペレーター モードで測定ルーチンをアクティブにすることができます。

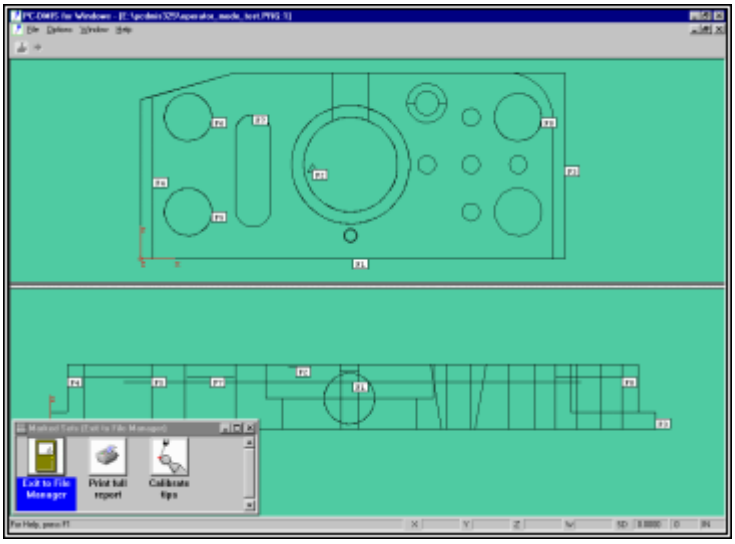
オペレーター モードでは、このダイアログ ボックスのうち次のオプションは*無効化* されます:

- **PC-DMISへのインポート**は、オペレーター モードに*ない*場合、測定ルーチン上をマウスで右クリックし、ポップアップ一覧から、「PC-DMISへのインポート」を選択することによってアクセス可能です。

- **PC-DMISからエクスポート**は、オペレーター モードに
  ない場合、測定ルーチン上をマウスで右クリックし、ポップアップ一覧から、「PC-DMISからエクスポート」を選択することによってアクセス可能です。
- **パーツ名、通し番号、または、修正番号の編集**は、測定ルーチンの PC-DMIS
  属性ページ上にあり、オペレーター モードに
  ない場合、測定ルーチン上をマウスで右クリックし、ポップアップ一覧から、「属性」を選択することによってアクセス可能です。

オペレーター モードのメニュー オプション

測定ルーチンがアクティブになると、PC-DMISの画面に次のメニューオプションが表示されます。



オペレーターモードの[グラフィックの表示]ウィンドウ

ファイル

[ファイル
]メニューを用いると、既存の測定ルーチンを開くか、その時点での測定ルーチンを閉じるか、その時点での測定ルーチンをエクスポートするか、または、当ソフトウェアを閉じることができます。

開く

[**ファイル | 開く**] メニュー オプションを選択すると、[**開く**] ダイアログ
ボックスを呼び出すことにより、異なる測定ルーチンを選択することができ、それによっていつでも、複数の測定ルーチンを切り替えることができます。選択された測定ルーチンが、その時点で実行中のパーツと異なる場合、新規選択の測定ルーチンが呼び出される前に、PC-DMISは、アクティブな測定ルーチンを自動的に保存して閉じます。しかし、[**開く**]ダイアログボックスから、アクティブな測定ルーチンを2回目に選択し始動しようとする場合、PC-DMISでは2つの選択肢があります:

- 最後の[保存]操作を行ってからアクティブな測定ルーチンに加えた変更をすべて破棄し、選択した測定ルーチンを変更せずに再起動します。
- すべての操作をキャンセルし、[**開く**]ダイアログ ボックスに戻ります。

オペレーター モードでは一定の時間1つの測定ルーチンしか開くことはできません。

閉じる

[**ファイル | 閉じる**]を選択すると測定ルーチンを閉じ、実行済みのマークされたセットの測定値が保存されます。

去る

[**ファイル | 終了**]を選択すると、実行されたマーク済みセットから最近取得された測定値を*保存せずに*現在の測定ルーチンを閉じます。事前に存在していたデータのみ回復可能です。

エクスポート

現在の測定ルーチンをエクスポートするには、[**ファイル|エクスポート**]メニューオプションを選択します。これにより、[**データのエクスポート**]ダイアログ
ボックスが表示されます。エクスポートするデータの形式、ディレクトリの場所を選択して[**OK**]をクリックします。エクスポートに関する詳しい情報は、「高度なファイルオプションの使用」の章にある「CADデータのエクスポート」を参照して下さい。

終了

PC-DMISとその他すべてのルーチンを終了し、コンピューターをログオフするには、[**ファイル | 終了**] メニュー オプションを選択します。PC-DMISは終了される前にその時点の測定ルーチンを自動的に保存します。

編集

[**編集**]メニューオプションから、[**プローブ計測値の設定**]ダイアログボックスにアクセスできます。このダイアログボックスを使用して情報を表示する方法を設定できます。詳細は「優先設定」章の「計測値ウィンドウの設定」トピックを参照してください。

画像

この**表示**メニューでは、オペレーターモードで次のウィンドウを表示または非表示にすることが可能です:

[グラフィックの表示]ウィンドウ -
このオプションを選択すると、[グラフィックの表示]ウィンドウを表示または非表示できます。「ユーザーインターフェースの利用」章にある「[グラフィックの表示]ウィンドウ」を参照して下さい。

[プレビュー]ウィンドウ -
このオプションを選択すると、[プレビュー]ウィンドウを表示または非表示できます。「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」章にある「[プレビュー]ウィンドウの使用」を参照してください。

プローブ計測値 -
このオプションを選択すると、[プローブ計測値]ウィンドウを表示または非表示にできます。「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」章にある「[プレビュー]ウィンドウの使用」を参照してください。

[マークされたセット]ウィンドウ -
このオプションを選択すると、[マークされたセット]ウィンドウを表示または非表示できます。「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」の章にある「[マークされたセット]ウィンドウの使用」を参照してください。「オペレータモードでの[マークされたセット]ウィンドウの使用」を参照してください。

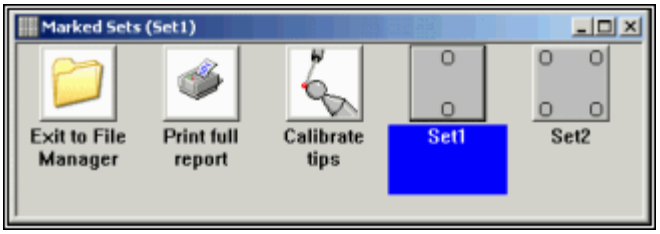
ウィンドウ

[**ウィンドウ**]メニューでは、複数の開いた測定ルーチンおよびウィンドウを管理するための操作が用意されています。「複数ウィンドウの操作と表示」の章を参照してください。

ヘルプ

ヘルプメニューは、PC-DMISの標準オペレーション
モードにおける全メニュー項目について記述しています。

オペレータモードでの[マークされたセット]ウィンドウの使用



[マークされたセット]ウィンドウ

測定ルーチンを開くと、[**マークされたセット**]ウィンドウが自動的に立ち上がります。オペレータモードでは、次のオプションが[マークされたセット]ウィンドウで使用可能です。

- ファイル マネージャーへの退出
- レポート全体を印刷する
- チップをキャリブレート
- あらかじめ定義されたマーク済みセットすべて

ファイル マネージャーへの退出

マネージャファイルに終了ボタンを押すと、
[**ファイルを開く**]ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスから、開くようとする測定ルーチンを選択します。

レポート全体を印刷

[**レポート全体を印刷**]アイコンは、測定ルーチンの「学習」部分でセットアップされた出力先に、完全なレポートを印刷します。

出力データがファイルに送信されると、RTF形式で保存されます。これがシステムの電源を入れてから保存する最初の検査レポートである場合、PC-DMISより[**新規ファイル番号**]ボックスに値を入力するよう求められます。[**自動**]がチェックされた場合、最初のファイルが保存された後、PC-DMISは(システムの電源が落とされない限り)今後すべてのファイルを最初に入力した番号から1つずつ増やして保存します。表示される番号は別の番号を入力するだけでいつでも変更できます。

現在の編集レポートを印刷するには、[**レポート全体を印刷**]ボタンを選択(またはF4を押すし)ます。編集ウィンドウの出力がプリンタまたは事前に選択されたファイルに送信されます。

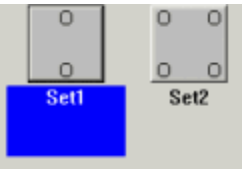
チップをキャリブレート

[**チップの校正**]ボタンを押すと、その時点での測定ルーチン内の、すべてのプローブの全先端チップ角度を校正します。このプロセスは、各プローブの先端チップの所在位置と直径をPC-DMISに知らせます。

PC-DMISはプローブの校正を追跡しません。プローブを何らかの方法で変更した場合は必ず再校正してください。

あらかじめ定義されたマーク済みセット

あらかじめ定義されたマーク済みセットは、[マーク済みセット]ウィンドウにも表示されます。これらの要素は測定ルーチン作成者により実行をルーチン、およびマークされており、実行するオペレータ用にセットに組み合わされています。



いくつかの、あらかじめ定義されたマーク済みのフィーチャー セットの例

マーク済みフィーチャーセット内のフィーチャーを実行し測定するためには、単に、マーク済みセット ウィンドウにある、そのセットをクリックし、PC-DMISによる手順に従って下さい。